



2学期も大変お世話になりました。おかげさまで、楡木小は大きく成長することができました。

なりたい自分になる秘訣その4「振り返る」

本日、2学期を終えることができました。登校日が80日を超える2学期は、見学旅行や集団宿泊教室、修学旅行や学習発表会など、たくさんの行事がありました。まさに、“晴（ハレ）の日（特別な日）”の連発です。非日常の活動の中で、新しい自分を見つけ、新たな挑戦を見定め、友達と成果を分かち合いながら素敵な成長が現れた子どもたちに、たくましまでも感じられるようになりました。

ただ、その成長の現れには、“曇（ケ）の日（普段通りの日常）”の取り組みこそが大事だったのではないかと、私は思うのです。とはいえ、普段通りの日常では、ほぼ変化がないように見える。だから、成長の結果にも成長している過程にも目が向かないことが多い。

「なりたい自分になる」という言葉自体は、非常に結果にコミットしているように聞こえます。“なれたかどうかが問題だ”、そう聞こえるということです。そう考えると、これはきつい。もともと、学ぶことも目的意識が強すぎるあまり、子どもたちにとっては非常にきつい苦役だと捉えられがち。学んだんだろう、その結果をテストで見せろよ！みたいな。

いや、本来学びとは、そうではない。むしろ、これからの学びは、結果よりも過程が非常に大切になる。なりたい自分をつつだけ見極めて、それに向かって一心不乱に突き進むだけしかないというイメージを払拭せねばならない。これもいいな、あれもいいなと、なりたい自分はTPOに合わせてどんどん変化するし、何でもやってみたくするのが本来の姿です。

そう、遊び心が大切なのです。

自由に即興的に展開される自分なりには意味のある世界で、多様な物語が繰り広げられている豊かな「過程」に身をゆだねながら、気の向くまま活動に没頭する心のもちよう、そんな遊び心が必要です。そんな遊び心での活動中にも、結果や目標が気になりだす。すると、心はその達成に向かって自然に動き出す。本気で探究する心のもちようへと変化していく。

ここ。ここが学びの一丁目一番地です。

遊び心をもちながら自由気ままに活動する（遊ぶ）中で、どうしても目的や目標が気になりだし、本気の探究へと没頭していく。

ただ、このような「なりたい自分になる」過程にコミットした活動世界にいる子どもたちは、自分の学びや成長に気づきにくいものです。

だから、「振り返り」がとても大切になってくるのですね。自分がどんな過程を経て、どんな自分に変化してきたのかをじっくりと見直す瞬間、成長した自身の姿に驚き、喜び、幸せ（well being）を感じるのではないかと思います。振り返らないなんて、もったいない！

そういう意味で、節目となる冬休みはとても大切です。年末という誰もが1年を振り返りたくなるひと時に、こたつでみかんを食べながら、家族みんなで自身の成長を言葉にする中で、成長してきた過程をかみしめる。そんな素敵な冬休みを送ることを期待しています。

えっ、こたつがない?? そうなんだ…

